

体験に学べ 就職活動に向け 現場で学べ

金沢学院大学全学就職委員会と就職指導部は七月二十一日、四号館講堂で就職教育講座「先輩に聴く」を開き、在学生約三百人が卒業生六人の就職活動体験談や助言を聞きました。

卒業生が助言

國新聞事業社（舟津梨花（シヨセキ）鈴木千佳子（見城亭）の皆さんで、藤川さんのほかは今春卒業生です。先輩たちは「積極的に情報を集める」「苦労することが自分の武器になる」「面接で奇抜な答えは避けた方がよい」「目的をもつて日々過ごすことが大切」などと話しました。



就職活動の体験をもとに後輩に助言する卒業生「講堂」

インターンシップ控え事前研修

金沢学院大学のインターンシップ事前研修は六月十九日から七月十三日まで、二班に分けて各六回の講座が開かれ、三年生五十六人が身だしなみ、挨拶、言葉遣い、来客対応、電話対応、名刺の受け渡しから、ビジネス文書、報告書、メモの書き方まで幅広く知識を身に付けました。



体験先の事業所に対する改善提案を発表する学生「5号館秘書実務実習室」

自然と向き合い制作

美術文化学部公開講座

中路教授が日本画の美解説

金沢学院大学美術文化学部の公開講座「日本画という美の世界」は六月二十四日、金沢市の石川県立美術館ホールで行われ、日本芸術院会員・日展常務理事の中路融人教授が作品制作における感性の重要性などについて話しました。中路教授は、自ら描いた風景画の下絵や写生と完成した作品をスライドを使って比較しながら、細部を仕上げていく過程を解説しました。「私は風景を写真に収めるようなことをしない。自然と向き合い、ぶつかりながら表現することで、自分の思いがこもった作品になる」と述べました。



講義を行う中路教授「石川県立美術館」

裁判員制度の職務と意義に理解を深める 金沢学院大学で出前講座



裁判員制度の仕組みを解説する田中検事 = 4号館講堂

「裁判員制度」を知っていますか。二〇〇九年五月までにスタートすることが決まっている同制度に理解を深めてもらう出前講座が六月二十九日、金沢学院大学で行われ、文学部の学生ら約三百人が、自分も将来選ばれる可能性がある裁判員の職務と意義に理解を深めました。

講座では、同制度を広報するドラマ仕立てのDVDを見たあと、金沢地方検察庁の田中康裕三席検事が裁判員と陪審員の違い、守秘義務などを説明しました。裁判員制度は、選挙人名簿から抽出された国民が、重要事件の審理に参加し、有罪無罪を審判し、量刑も定める制度です。

土曜大学で地図検索

金沢学院大学基礎教育機構の土曜大学「地図検索あれこれとワードによる図形編集」は七月一日、2号館で約三十人が参加して行われました。岡田政則教授が、検索エンジンでの仕組みや活用方法について解説しました。参加者は実際に地図を検索し、取り込んだデータを図形編集機能などで加工し、お知らせポスターにも挑戦していました。写真上



28日に東高校見学会 金沢学院東高等学校の校見学会は七月二十八日、金沢市末町の同校で行われます。午前九時半から各教室で学校紹介と入試方法の説明などがあり、午前十時半から体育館で部活動の紹介・演技を行います。

発行・広報室